

素材を利用した身体表現遊びの検討  
—「布」の有用性—

**The study of the expressive body movement play using the material  
for infants  
-Usefulness of the cloth-**

高 原 和 子・瀧 信 子・宮 嶋 郁 恵・矢 野 咲 子  
Kazuko Takahara · Nobuko Taki · Ikue Miyajima · Sakiko Yano



# 素材を利用した身体表現遊びの検討 —「布」の有用性—

## The study of the expressive body movement play using the material for infants -Usefulness of the cloth-

高原 和子・瀧 信子\*・宮嶋 郁恵\*\*・矢野 咲子\*

Kazuko Takahara・Nobuko Taki・Ikue Miyajima・Sakiko Yano

キーワード：布遊び，身体表現遊び，5歳児，環境設定

### はじめに

幼児期運動指針において、「幼児期は、生涯にわたって必要な多くの運動の基となる多様な動きを幅広く獲得する非常に大切な時期である」とされ、幼児期における多様な動きの重要性が述べられている<sup>1,2)</sup>。そして、動きの獲得として「動きの多様化」と「動きの洗練化」の二つの方向性が示されている。特に「動きの多様化」においては、幼児期に獲得しておきたい基本的な動きとして「体のバランスをとる動き」、「体を移動する動き」、「用具などを操作する動き」を挙げ、「体を動かす遊びや生活経験などを通して（中略）、多様な動きを獲得していく」ことの重要性が示されている。

一方、内容の整合性化が図られた平成29年告示の幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（以下3法令とする）では、社会情動的スキルや非認知的能力の獲得において幼児期の教育・保育が重要であることを示唆する近年の研究を受け、その内容の充実が図られ、特に環境を通じた教育・保育がその基本とすることが明記されている<sup>3,4,5)</sup>。すなわち、幼児自らが環境に関わり、自発的に活動し、様々な経験を積んでいくことができるように配慮すべきであるとされている。よって、幼児教育施設等においては、幼児自らすすんで楽しくからだを動かす機会が持てるように十分な環境設定とその工夫が

求められている。

このように、幼児期においては多様な動きの獲得が必要であり、そしてそれが幼児自らの自発的な活動となるように子どもを取り巻く環境への配慮が重要とされている。

これらのことから我々は、このような教育・保育の充実を図ることを目的として、幼児の活動における環境設定の検討を、身近にある素材を使用して実践的な研究を実施している。

その第一弾として、まずは「ダンボール」を使用した遊びの実践における分析を試みた。その結果、幼児期に必要な基本的動作が十分出現することが確認され、ダンボールを用いた環境設定は、幼児の多様な動きの経験に繋がる有効な環境設定となり得ることが示唆された<sup>6,7,8)</sup>。また、イメージの表出に着目して検討した研究では、ダンボールを利用した遊びは、ダンボール特有の質や形が想像性から創造性への刺激を喚起し、扱うことの楽しさ、おもしろさが伝わり易く、自らが積極的に働きかける創造的な身体表現へ発展するきっかけを生むことの示唆を得ることができた<sup>9,10)</sup>。

このように、ダンボールを利用した環境設定では、幼児自らの主体的な活動を十分引き出す結果を得ることができた。そこで、素材を使用した実践研究の第二弾として、「布」を使用した遊びの実践を実施し、出現する動作の種類の種類を調査を試みた。その結果、幼児なりに布の特徴を捉えた様々な操作と、操作しながら歩

\* 福岡こども短期大学 \*\* 福岡女子短期大学

く・走る・すべる・這う・跳ぶ・転がる・回るなどの移動する動きが出現した。また、遊び始めは、幼児一人で布を操作する姿が多く見られていたが、時間の経過とともに仲間と一緒に遊ぶ姿も増え、布を綱に見立てたチーム対抗の「綱引き」や、布を丸めてボールに仕立てた「キャッチボール」、仲間と協力した「ソリ遊び」など集団的遊びへの発展もみられた。このことから、「布」を使用した環境設定も幼児自らが布の特徴を活かした操作方法を創意工夫し、活発にからだを動かすことができる環境設定として有効であることが示唆された<sup>1)</sup>。

この「布」を使用した遊びの実践では、振る・回す・巻きつける・包む・畳む・投げる等の捕捉動作が多く出現し、この操作動作が布遊びの特徴と考えられた。ダンボール遊びにおいても出現していたが、扱いやすさにおいては布の方が勝っていた。特に、この特徴が活かされた遊びとして、男児では「マント」、女児では「スカート」にする姿が多く観察された。この遊びの特徴に代表されるように、布を使用した遊びでは、布からイメージする遊びに発展することが多く、このことも布遊びの特徴と考えられた。そこで、本研究では、布という素材を使用して幼児はどのようにイメージを膨らませていたか観察内容から考査し、イメージを引き出す素材としての布の有用性について検討した。

## 方 法

### (1) 研究対象

保育園・幼稚園（3施設）に通う5歳児を対象に、布を使用した遊びを実施した。各保育施設の実施人数および使用場所は表1のとおりである。

表1 各保育施設の対象児の人数と使用場所

保育施設	人数	使用場所
A 保育園	17名	小体育館
B 保育所	18名	保育室
C 幼稚園	20名	ホール

### (2) 布遊びの実施方法（環境設定）

遊びに使用した布は3種類の布(木綿・タオル・オー

ガンジー)である。

3種類の布(木綿:95cm×90cm, タオル:68cm×130cm, オーガンジー:115cm×100cm)を幼児が自由に使えるように準備し、遊びの時間を30分間設定した。(写真1)。



写真1 布遊びの環境設定と実施前の説明の様子

遊びの内容に関しては、幼児の自主性に任せた。ただし、事前に①30分間自由に布を使って遊ぶこと、②用意した布以外の物は使わず、切ったり破ったりしないことの2点を幼児らに話した。なお、保育者および研究者(筆者)らは、指導や援助、声かけなどは行わず、安全管理と危険回避のみ行った。

実施および撮影は、2017年6月～2018年2月である。

### (3) 観察方法

布を使用して遊ぶ幼児の様子を30分間ビデオに記録した。その映像を基に、遊び込んでいる幼児、あるいは遊びが継続している幼児の姿を追いながら、表現動作が出現した時点でビデオを停止し、その静止画像を保存するとともにその内容を記録した。この表現動作の静止画像は、表現動作の分類・分析の際の確認に用いた。ただし、布を使わない遊びや、失敗などで表現動作が途中で終わったもの、完了されなかったものについては、データから除外した。

### (4) 観察記録内容

予め記録表を作成し、表現動作の出現する度に記録した。記録の内容は、表現動作の出現時刻、遊び(動作)の具体的な内容、表現動作の分類、布の種類と使い方、仲間との関わりである。また、イメージを持って遊び込んでいる時の幼児の言葉や、その様子から幼児がイメージしているものを推測し記録した。

なお、本研究の実施にあっては、事前にそれぞれの園の保育者と保護者に対し研究の趣旨を説明し、ビデオ撮影の承諾と同意を得て実施した。また、その際、本研究における収録映像は、研究のみに使用することも伝えた。

## 結 果

幼児は、自分の使いたい布をその都度選び、30分の遊び時間の間、途切れることなく遊び続け、布の様々な操作とともに多様なからだの動きを出現させていた。そして幼児は、からだ全体で自分のイメージを表現し、その喜びを味わったり、仲間とイメージを共有して一緒に楽しんだりしながら次から次にイメージをもった遊びに熱中していた。その中でよくみられた布の使い方と遊びは次のとおりである。

### ① 布を床に広げて置く (写真2)

- ・布団 (上に寝る、2枚重ねて間に入る)
- ・サーフボード (床に敷いて上に立つ)

### ② 布を折り畳む・丸める・包む (写真3)

- ・座布団 (床に畳んで置き上に座る)
- ・洗濯物畳み (小さく畳む)
- ・ボール (結ぶ・丸める)
- ・プレゼントの包装 (布を他の布で包む)
- ・荷物運び (小さく畳んで頭に載せて歩く)
- ・ビジネスマン (小さく畳んで持って歩く)
- ・赤ちゃん人形 (布で包み、高い高いをする)

### ③ 布を床に敷き滑らせる (写真4)

- ・オットセイ (上にうつ伏せで乗り、這う)
- ・スケート (足下に敷いて、滑りながら進む)
- ・スキー・ジャンプ (足下に敷いて両足で跳ぶ)
- ・ソリ (上に座り、お尻で滑りながら進む)
- ・サーフィン (走り乗って滑らせる)
- ・ゴーカート (上に正座で座り、膝で滑らせる)
- ・雑巾がけ (床上を滑らせ押しながら進む)

### ④ 布を操作する (写真5)

- ・バレーボール (スパイクのように打ちつける)
- ・キャッチボール (投げて捕る)
- ・頭キャッチ (投げて頭に載せる)
- ・からだキャッチ (投げてからだに載せる)
- ・たこあげ (片手で持って走る)
- ・コマまわし (片手に持ちその場で回転する)
- ・ヘリコプター (頭上で振り回しながら走る)
- ・プロペラ機 (からだの前で回しながら進む)
- ・飛行機 (両手に1枚ずつ持って走る)
- ・着陸 (両手で持ち走りながらうつ伏せで滑り込む)
- ・スーパーマン (後ろ手に両手で持ち上げて走る)
- ・鳥 (肩から両手で持ち羽ばたくように走る)
- ・盾 (からだの前に広げて攻撃をかわす)
- ・縄跳び (回しながら跳ぶ)
- ・綱引き (グループ対抗で引っばる)
- ・ソリ (友だちを乗せて引っばる)
- ・水上スキー (友だちが掴んでいる布を引っばる)
- ・戦いごっこ (振り回し、相手を叩く)

### ⑤ 布をからだにつける (写真6)

- ・おばけ (頭からすっぽりかぶる)
- ・ミノムシ (からだに巻きつけながら転がる)
- ・虫 (全身を覆い小さくなって、這う)
- ・隠れ蓑の術 (壁際に立ち、両手で前に垂らして隠れる)
- ・木の葉隠れの術 (頭から被り、寝転ぶ)
- ・忍者 (頭に巻いて歩く・走る)
- ・テント (頭から被り小さくなる)
- ・膝掛け (座って足の上に掛ける)
- ・仮面 (顔にかける)
- ・マフラー (首に巻く)
- ・マント (肩から背中に垂らす)
- ・スカート (腰部に巻く)
- ・ドレス (からだに巻きつける)
- ・ボクシング (手に巻きつけてパンチする)
- ・ヒーロー (背中につけて跳ぶ・飛び下りる)

写真2 ①布を床に広げて置く

布団



サーフボード



写真3 ②布を折り畳む・丸める・包む

座布団



洗濯物畳み



ボール



プレゼント



荷物運び



ビジネスマン



赤ちゃん人形



写真4 ③布を床に敷き滑らせる

オットセイ



ソリ・スケート



スキージャンプ



サーフィン



ゴーカート



雑巾がけ



写真5 ④布を操作する

バレーボール



投げる



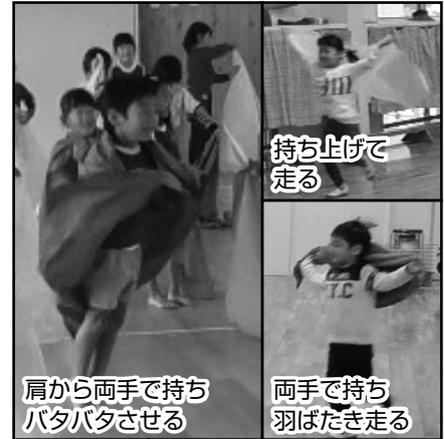
捕る



飛行機・プロペラ機



鳥



スーパーマン



凧揚げ



コマまわし



盾



縄跳び



綱引き



ソリ遊び



水上スキー



戦いごっこ



写真6 ⑤布をからだにつける

おばけ



スカート



ドレス



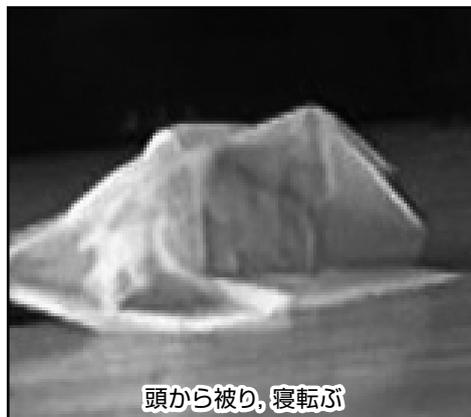
虫・ミノムシ



隠れ蓑の術



この葉隠れの術



忍者



テント



マフラー



マント



仮面



ボクシング



## 考 察

我々は、幼児の多様な動きとそこから生まれる創造的な身体表現への発展につながる環境構成の工夫について検討することを目的に、身近な素材の有用性について実践研究を行っている。その一環として、今回は使用する素材に「布」を用い、幼児が「布」からどのようなイメージを持ち遊び込むか、観察を通して検討した。

「布」という素材に関して、古屋<sup>12)</sup>は、「イメージから動きを膨らませる素材としての布」の観点から、幼児の運動指導における用具の持つ意味について考察している。「布は、様々な形状に変化させることができ、ある程度の強度があるため、包む・乗せる・丸める・引っぱる等、多様な特性を有する用具である」とし、そのため幼児にとって自分のイメージを動きで表現することや、活動を通じた他者との関わり合い等において有効な道具となり得ると述べている。

また、梅原<sup>13)</sup>は、「楽しく遊ぶための道具や遊具は、幼児が一つの遊びに固まらず、多種多様な動きを探索し、創作することができるような可変性に富んだもの(素材)が望ましい」と述べている。そして「布」には、①素材が柔らかく安全である。②腕・手首などの力が弱くても、操作が容易である。③空気の抵抗で形が様々な変化するので視覚的にも楽しめる。といった特徴があることから、「布」は幼児たちの自然な動きを妨げず、感覚と運動の両者を刺激していく道具として最適である、と考察している。

これらのことから、「布」という素材は、幼児の遊びの道具として有用であることが示唆される。

実際、我々の研究においても、同様のことが確認された。本研究では3種類の「布」を用意したが、どれも幼児にとって容易に取り扱うことができるため、遊びの始まりでは、それぞれの扱い方を試すように「振る・回す・投げる」遊びを盛んに行っていた。そのうち、それぞれの一番扱いやすい、あるいは興味をもった布を使い、様々な動きを出現させ、その動きからイメージする遊びへと発展していった。

幼児たちは「床に敷いたり・広げたり」して布団のように寝て被ってみたり、くるまったりする(主にバ

スタオル)、「頭に被って」おぼけになったり、仮面を作ったりする(主に木綿やオーガンジー)、投げてキャッチしたり、振り回したりする(主に木綿やオーガンジー)等、思いつくものをどんどん実践していった。

また、布の特徴を捉えた遊びも多く出現した。木綿とオーガンジーでは、始め持って布をたなびかせて走る姿が多く観察された。その後、布の特徴である柔らかさに気づいた誰かがからだに巻いて遊び始めると、それに気づいた他の幼児も次から次にからだにまとい始めた。そのうち、端を結ぶことで留めることに気づき、布からイメージする衣服ができあがっていった。まさしく、これが布遊びの特徴の一つと考えられた。この特徴からイメージされた遊びとして、男児ではマントに見立てて仲間と一緒にヒーローごっこに発展していき、女児ではからだに巻きつけてスカートやドレスに見立てて、宛らお姫様になって遊ぶ姿が多くみられた。

さらに、木綿やオーガンジーは容易に「振る・回す・投げる」が可能のため、特に男児においては、このような動的動作が盛んに出現していた。始め、布を素早く振ったり投げたりしていたのが、ヒーローごっこと相俟って、振り回して攻撃するような動作に変化していった。そして、やがて手に布を巻きつけて相手を攻撃するようなボクシング遊びが出現したり、それを防御するために布で盾をつくって防いだりと、戦いごっこが増えていき、それが遊びの主流となった。

一方、タオルでは、その丈夫さを利用した綱引きや、床に敷いたタオルの上に他児を乗せて引くソリ遊びが出現した。これらの遊びはやがて数名で協力し合う集団遊びへと発展した。

このように、幼児は「布」という素材の特徴を認識し、「布」の特徴からイメージし、それぞれの「布」に応じた扱い方とともにイメージを膨らませ創造して遊びを展開する、つまり「布」という環境設定は、想像から創造を生み出しやすいことが確認された。また、「布」に刺激されイメージされた遊びは、他児の模倣を誘い、イメージを共有した集団遊びへ発展することも確認された。これらの結果から、本研究の「布」を使用した環境設定は、幼児自らが布という素材の特徴を活かした操作方法を創意工夫し、様々なイメージ

を持って遊び込む身体表現遊びに展開できる有用な環境設定であることが示唆された。

環境を通して行う教育・保育については、3法令においても、幼児教育の中心として示されている。各教育要領・指針では、保育者は「幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気づき、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになる幼児期の教育における見方・考え方を生かし、幼児と共によりよい教育環境を創造するように努めるものとする。」(幼稚園教育要領第1章総則第1幼稚園教育の基本)<sup>3)</sup>、「子どもが自発的・意欲的に関われるような環境を構成し、子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にすること。特に、乳幼児にふさわしい体験が得られるように、生活や遊びを通して総合的に保育すること。」(保育所保育指針第1章総則1保育所保育に関する基本原則(3)保育の方法オ)<sup>4)</sup>などと明記されている。これら各教育要領・指針が示す「環境を通して行う教育・保育」の観点からも本研究の「布」を使用した環境設定の実践研究は、意義深いものと考えられる。

本研究では、布という素材を使用して幼児はどのようにイメージを膨らませるかに視点を置き、イメージを引き出す素材としての布の有用性について検討した。その実践研究から、「布」を使用した環境設定は、幼児の創造性を刺激し、活発な身体表現遊びへと発展させる環境設定として有用であることが確認された。

## 参考・引用文献

- 1) 幼児期運動指針策定委員会：幼児期運動指針。文部科学省。2012。
- 2) 幼児期運動指針策定委員会：幼児期運動指針ガイドブック毎日、楽しく体を動かすために。文部科学省。2012。
- 3) 文部科学省：幼稚園教育要領（平成29年告示）。2017。
- 4) 厚生労働省：保育所保育指針（平成29年告示）。2017。
- 5) 内閣府，文部科学省，厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）。2017。
- 6) 瀧信子，矢野咲子，怡土ゆき絵，青木理子，小川鮎子，小松恵理子，高原和子：5歳児にみられたダンボールあそびの実践報告。九州体育・スポーツ学研究。31(1)，68，2017。
- 7) 瀧信子，矢野咲子，怡土ゆき絵，青木理子，小川鮎子，小松恵理子，高原和子：5歳児の多様な運動経験に繋がる自発的なダンボール遊びの有用性。福岡こども短期大学研究紀要，28，19-27，2017。
- 8) 高原和子，瀧信子，矢野咲子，小川鮎子，小松恵理子：幼児の自発的なダンボール遊びにおける動きの内容。福岡女学院大学大学院紀要 発達教育学，6，33-45，2018。
- 9) 瀧信子，高原和子，宮嶋郁恵，矢野咲子：3歳児に見られたダンボールを利用した身体表現遊びの展開。日本保育学会第72会大会。2019。
- 10) 高原和子，瀧信子，宮嶋郁恵，矢野咲子：4歳児にみられたダンボールを利用した身体表現遊びの展開。日本保育学会第72会大会。2019。
- 11) 瀧信子，高原和子，宮嶋郁恵，矢野咲子：5歳児にみられた布遊び。九州体育・スポーツ学会第68回大会。2019。
- 12) 古屋朝映子：保育現場における用具を活用した運動教材の一例 -布を用いた運動-。川村学園女子大学研究紀要，29(2)，129-135，2018。
- 13) 梅原俊子：知的発達障害幼児の動きの獲得について-布を使った運動遊び-。日本保育学会大会研究論文集(51)，762-763，1998。

## 付 記

本論文は、「布を利用した身体表現遊びの展開」として第73回日本保育学会でポスター発表したものを加筆・修正したものである。